

納税者として国の経済を考えよう

～身近な話題や新聞記事から社会保障を考えよう～

群馬県太田市立城西中学校 朝香雄紀

はじめに

本章では、経済について「消費者→企業→納税者」の立場から考えている。その中で、生徒にとって納税者として経済を理解するのは、身近な問題ではあるが、なかなか難しいことである。生徒に「消費税を納めているのだから、あなたも納税者です」と言うと多少実感がわくが、自分で労働して得た金銭を納税しているわけではないため、限界がある。さらに、納税したものがどのように還元されているのかを理解するのも同様に縁遠いものとして感じられやすい。

また、最近の重要な政治的課題として、「後期高齢者(長寿)医療制度」の問題をはじめとして社会保障の問題(おもに制度充実と費用負担増)がある。これは全世代・各所得者層に理解を得られる解決策はいまだ見出せない問題であり、将来を危惧させる問題でもある。

2 授業展開例

この社会保障を授業で扱う場合、生徒の将来にとって大切である反面、やや離れた年代の問題や現状をあまりに深く扱いすぎることにより、生徒に「暗い現実」を想像させることになりかねない。

そこで、社会保障の内容を理解させるには

身近な話題となるようにクイズを出し、その後現代の医療制度・社会保障の課題について解決していくにはどうすべきかを考えさせるような授業展開をしていく。

第1時 社会保障についての理解

この時間では、教科書を使いながら、社会保障についての理解を深めさせていく。そのために、教科書p.76にあるような生徒に身近な話題のクイズを出す。

《クイズ例》導入部で使用

- ①あなたが、病院でカゼの治療として診察と注射を打ってもらいました。診察代として1500円払いました。本当の費用はいくらでしょうか。
 - ②毎日家から出るゴミ。それを決められた場所にもっていくと、その日の午後にはゴミ袋がなくなっています。そのサービスがなくなったら、どうしますか。
 - ③多くの人が通っていた保育園や学童保育。それがなくなったら、そのとき、あなたはどのようにしていただろう。
 - ④近所に住んでいる生活保護を受けているおじいさんが、夏の日に暑さで苦しんでいました。そのとき、あなたは何ができますか。
- 解答は、①5000円(負担は医療費の3割)②～④は自由解答だが、生徒が悩むことができればよい、と考える。その後の展開で、話題にできるように生かしていく。ちなみに、①社会保険・②公衆衛生・③社会福祉・④公的扶助

についての内容である。

このクイズのあと「人生にはいろいろなことがある。しかし、人には人として生きる権利がある。それを実現させていくためにも、社会が手助けしていかななくてはならない」とふれたあとで、生存権について扱う。

そのあと、教科書p.77

②日本の社会保障制度の表をあらかじめ枠だけプリントに用意しておき、生徒ごとにまとめさせていく。その中で、時間によっては細かに説明することもよいが、各項目から1～2点の内容について解説を加える（私の場合は、前述のクイズに関連した内容にふれる）。ただし、社会保険と生活保護などは、別単元でも

扱える内容である。作業の早い生徒には、用語集で用語の確認をさせるなどして、進度の差をうまく解消するように工夫する。

最後に、次時に扱う社会保障の問題としての新聞記事を紹介しておき、宿題として事前

《新聞資料例》『「無料化」から35年 新制度は混乱』東京新聞2008年5月18日

「戸惑い多く 透明性なき新制度」東京新聞2008年5月25日

に問題となるところをあげさせておく。また、これに関連して、社会保障に関連しそうな新聞記事（インターネット記事も可）を探して持ってくるように指示しておく。

第2時 社会保障の問題と解決策

前時の最後にふれた新聞記事をもとに、生徒数人で話し合いをさせる（私の場合は、話しやすい数人のグループをつくり、話し合わせる）。

これ以外にも社会保障関連の新聞記事等を持ってきた生徒については、話し合いの中で活用させることとする（持参に対して賞賛す

社会保険	公衆衛生	社会福祉	公的扶助
医療（健康）保険 年金保険 雇用保険 労災保険 介護保険など	感染症予防 予防接種 廃棄物処理 下水道 公害対策など	児童福祉 母子福祉 身体障害者福祉 高齢者福祉 など	生活保護 生活・住宅・ 教育・医療 などの扶助
加入者や国・事業主が社会保険料を積み立てており、必要とき給付を受ける。	国民の健康増進をはかり、感染症などの予防をめざす。	働くことが困難な人々に対して、生活の保障や支援のサービスをする。	収入が少なく、最低限の生活を営めない人に、生活費などを給付する。

「中学生の公民 初訂版」p.77

ることで、生徒はその後の話し合いに入る意気込みが全然違ってくるので、全体に紹介する)。

《課題》

- ①現在の社会保障(社会保険)の問題とは何か。
- ②その問題について解決方法を考えなさい。

課題①については、次のような解答が想定されるであろう。

- ・医療費が増大してきている。
- ・75歳以上の高齢者も保険料を支払う。
- ・保険料支払いによって年金が減る。
- ・医療の質が低下する。
- ・低所得者の費用負担が増加する。

課題②では、課題①の問題をあげさせ、全体になげかけたうえで、これに対して生徒なりの意見を考えさせる。当然、最初は「高齢者に保険料の負担をしてもらうことはしない」といった意見が出てくることが予想される。そこで、「では、その費用は、どうするのか」とさらに質問することで、生徒は悩み、改善策を考えていく。そして、最終的に意見を発表させて、他グループに聞いてもらうようにする。その際に、簡単なフリップを用意し、見出しのように意見をまとめさせてから、意見発表をさせるとよい。

《予想解答例》

- ・医療費を抑えるように努力する。
- ・健康な生活を送るように呼びかける。
- ・高齢者の医療費が多いのは、仕方がないので若年層が負担をすべき。
- ・医師が医療費を抑えるように工夫する。
- ・累進課税制を強化する。

さらに展開に余裕があれば、生徒たちがあげた意見を、他のグループに質問させてみると考えの盲点が見つかり、さらに考えが深まっていくことにもなる(私の場合は、時間

の関係や生徒間の人間関係もあり、授業者が質問をすることになっている)。

そして、最後に社会保障は資本主義社会の弱点を補う制度であること、これからの少子高齢社会では重要さが増すこと、をあげたうえで、楽しい将来(未来)にしていくにはどうしたらよいか、を考えさせるようにしていく。生徒からは「みんなが不公平感のない社会をつくるような制度にすべき」「格差社会といわれる世の中でみんなが安心して暮らせる制度にしていかななくてはならない」というような意見が出てくればよい。これについては、教師が意見を加えながら、最後には明らかな形で授業を終えるよう努めたい。

3 発展展開例

発展した展開として、教科書ではp.83に「国によって社会保障はちがう?」という記事を掲載している。この記事を、生徒に紹介し、「あなたなら、どちらかの国で生活することになった場合、どちらの国に住みますか」と二者択一をし、その意見も述べさせたい。ここでは、「高負担・高福祉型」のスウェーデンと「低負担・低福祉型」のアメリカを紹介している。どちらがよいかは一概にはいえないが、最近の日本の状態は、格差社会の表面化からも察するようにスウェーデン型からアメリカ型にシフトしてきているように感じる。社会保障について他人事に感じる生徒は、アメリカ型からの意見を上げることが多い。「人の負担まで自分がなぜしなくてはならないのか」という意見である。どちらのシステムにせよ、社会は互助で成り立つもの、ということを生徒に話していくことも授業者として大切なことだと感じている。